

万民和楽
祈りのかたち

令和の玉箒

展示 令和8年3月8日(日)～3月29日(日)

場所 ギャラリーおほもと(東光苑)

東京都台東区池之端二―四 大本東京本部内

正倉院宝物として保存されている「子日目利箒」(玉箒)は、天平宝字二年(七五八)孝謙天皇が正月初子の日の儀式で用いたとされる手箒。「粉地彩絵倚几」は、玉箒を置いた台座。淡緑色地に白・紫・黄色などで花葉文や飛鳥・蝶・唐草などが描かれている。古代中国では、皇帝が五穀豊穡を祈り、皇后は蚕の神を祀る儀式が行われていた。そうした儀式をもとに、奈良時代には宮中にて国の平安、農業や商工業の発展、国民の幸せを祈ったとされる。令和七年十一月、「万民和楽」の祈りを込めて、令和の玉箒が完成。台座の「粉地彩絵倚几」は、正倉院宝物と同寸法で精巧に再現した。



ご自由
にご覧頂けます

ギャラリーおほもと(東光苑)